

1. 第10回全共出品対策とその成果からみた地域畜産振興の現状と 今後の課題

玖珠家畜保健衛生所

○(病鑑)河野泰三 中西年治 近藤信彦

【はじめに】

管内は古くからの肉用牛繁殖地帯で、和牛の育種・改良が主体的かつ積極的に取り組まれてきた地域である。また、近年では大規模肥育経営体の新規参入もあり、繁殖・肥育地域一貫生産体制が構築され、豊後牛の銘柄確立に向けた取組が、地域一丸となって行われている。こうした中、和牛の育種・改良の成果を競う第10回全国和牛能力共進会(以下第10回全共)の開催にあたり、家畜保健衛生所(以下家保)は地区指導班員として出品対策に携わり、一定の成果を得るとともにその成功裏にある地域畜産振興の現状と今後の課題について検討したので報告する。

【取り組み内容】

第10回全共で優秀な成績を修めることを目的に、生産者の意欲向上と出品牛の選抜等の取り組みを図るため、第10回全共西部地区推進協議会(以下西部推進協)を組織した。出品牛の生産と選抜は、県出品基本方針に基づき、家保を中心に農協をはじめとする関係機関で構成した指導班で連絡、協議を図り行った。同時に地域の育種組合、人工授精師、獣医師、削蹄師等と連携し、計画交配、定期的な巡回と集畜による飼養管理指導等を実施した。

【成果】

第10回全共大分県代表牛に管内から、種牛の部第4区(系統雌牛群)に4頭、第5区(繁殖雌牛群)に4頭、第6区(高等登録群)に3頭、第7区(総合評価群)に7頭、肉牛の部第7区(総合評価群)に2頭、第8区(若雄後代検定群)に1頭の合計18頭を出品した。その結果、第5区で優等1席(農林水産大臣賞)、第4区で優等2席、第7区で優等4席、第6区で優等6席を獲得した。

【まとめ及び考察】

第10回全共に管内から種牛群と肉牛群計18頭を出品した。このことは長年の間、和牛の育種・改良に積極的に取り組んだ成果であると同時に、出品者の熱意と努力に他ならない。加えて、農協、行政機関、関係団体が出品者を支援する体制が整備され、出品者と関係者が一体となって取り組んだこと、候補牛の選抜にあたり母牛の繁殖状況や育種価、系統等が瞬時に分かるJA母牛台帳システムが構築されていたことが、大きく貢献したものと考えられる。しかしながら、肉用牛生産の現状は、生産者の高齢化や昨今の厳しい情勢を反映し、飼養戸数や頭数の減少をはじめ、県外種雄牛精液の供用割合増加、生産者の全共等品評会参加への消極化、関係者の業務多様化による指導体制の脆弱化等多くの課題を抱えている。

こうしたことから、第11回全共に向けた出品対策や地域畜産振興を図るためには、生産者と関係機関の連携を一層強化し、統一した目標を掲げ、その目標達成に向けそれぞれが最大限努力し、総力を結集することが、豊後牛の評価を高め、延いては農家所得の向上と生産振興に繋がるものと考えられる。